

特集：広島保健学学会学術集会閉会にあたって

広島大学大学院保健学研究科が誕生した2004年に、保健学の発展と人々の健康増進に貢献することを目的に、広島保健学学会が設立されました。この間、2004年10月に開催された第1回の学術集会から2016年10月の第13回学術集会まで、それぞれの時期のトピックスや社会的ニーズ等を盛り込んだ素晴らしいテーマや、国際シンポジウム等を含めた有意義な企画で、各学術集会を開催いただいた学術集会長をはじめとした教職員の皆様、大変感謝申し上げます。また2011年からは県立広島大学保健福祉学部との合同学術集会も計6回開催することができ、両大学の友好を深めることで、今後に向けた共同研究や協力体制が築けたものと思います。

ただ本学がRU (Research University) / SGU (Super Global University) に採択され、グローバル化を推進し研究大学として発展させてゆく使命から考えますと、学術集会を企画・運営する上で、教職員への負担感が容易に解決されない現状では、このまま学術集会を継続することは効果的とは言えず、2016年10月の第13回学術集会を最後に閉会することに致しました。大学院生や若手教員の学会発表や座長／司会の機会を減らすことになり、大変申し訳ありません。しかし、計13回の本学術集会開催で得られた貴重な体験は、今後も我が保健学専攻スタッフの教育・研究・社会貢献のあらゆる場面で生かされて行くものと確信しています。

最後になりましたが、保健学専攻の教職員や大学院生が、保健・医療・福祉の各方面で益々活躍され、また、更なる教育・研究業績と継続した社会貢献を推進されてゆかれることを祈願しております。

平成29年3月1日

広島大学大学院

医歯薬保健学研究院副研究院長

保健学研究科長

第5回広島保健学学会 大会長

片岡 健